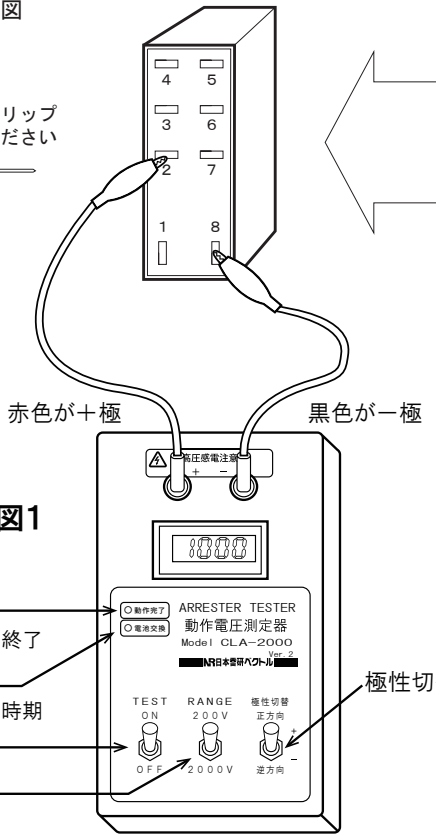
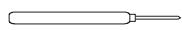


避雷器本体内部素子の点検方法は動作開始電圧（素子に微小電流を流したときの電圧）を測定して判断します。

●ピン配列と本体内部回路図（注意：本体部のピン番号とソケットの端子番号は異なります。）

本体部
ピン側よりの図

テストピン又はクリップにておこなってください

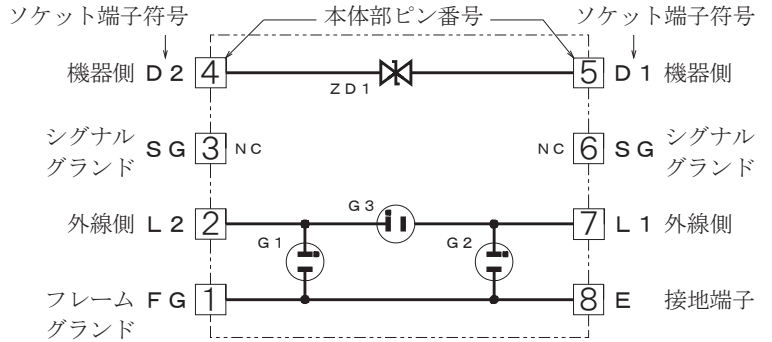


動作完了表示
緑色点灯：計測終了

電池交換表示
赤色点灯：交換時期

テストスイッチ

レンジ切替



ZD1：シリコン式サージ吸収素子
G1-G3：ギャップ式サージ吸収素子
NC：None Connection（無接続）

点検前・・・ご注意

- ① 安全のため配線されたソケットより外して行ってください。
- ② 感電にご注意ください。
TESTスイッチONにしているとき、出力の電極を素手で触れないでください。
- ③ 試験回数につきまして
2～3回程度で終了してください。
モリブデン式のみでなく酸化亜鉛式、ギャップ式なども劣化の原因になることもあります。

点検後・・・新品交換待ちになった場合

- ① 劣化と判断した場合であっても信号に支障がなければ、新品交換まで付け戻してください。
交換までの雷サージ対策となります。

チェッカーの動作について

チェッカー CLA-2000の数値は
TESTスイッチをOFFにするまで表示します。

●素子の良否判定方法

- ① チェッカーCLA-2000を図1のように接続します。
- ② 測定するピン間の動作電圧に合わせてRANGE（レンジ）を切り換えてください。
- ③ TESTスイッチをON側に投入してください。
- ④ 指示値が下表の範囲外の場合は、劣化（不良）と判定します。

<伝送回線用避雷器 SF-112>

| 保護素子位置 | 素子符号 | 測定端子 | ピン番号 ⊕ ⊖ | 印加電圧 (レンジ) | 確認内容 |
|--------|------|--------|-------------|---------------|-------------------|
| 機器側線間 | ZD1 | D1/D2間 | 5-4 * 1 | DC200V | 25-30V 範囲内であること |
| 線-接地間 | G1 | L1/E 間 | 7-8 | DC2000V | 225-345V 範囲内であること |
| 線-接地間 | G2 | L2/E 間 | 2-8 | DC2000V | 225-345V 範囲内であること |
| 外線側線間 | G3 | L1/L2間 | 7-2 | DC2000V | 225-345V 範囲内であること |

* 1 ダイオードZD1の逆方向をチェックします。（極性切替スイッチを使用します。）

●専用ソケット内蔵のライン抵抗も抵抗測定用テスターで確認してください。

端子⑦から⑤間 約3Ω / 端子②から④間 約3Ω あれば良好です。
サージによりストレスを受けた場合は高抵抗となっています。